

# 感動と、負ける練習

理屈では人間は動かない。人間を根底から動かすものは、理論や理屈でなくて、全身（いのち）の感動であり、腹の底からの納得であるとおもいます。理論や理屈では、人間は動きません。

その証拠に、理動という言葉はありません。理論や理屈は、頭の一部で作るものですから、頭のいい人には叶いません。

感動は命の一部ですから、頭のいいわい、学歴のあるなしには関係ありません。いかなるイデオロギーにも関係ありません。そして感動には金は一銭も係りません。

感動は他から強制されるものでなく、命令されるものでもありません。あくまでも、自身つまり、いのちそのものから出てくるものです。

だから感動には嘘がありません。感動こそが、人間として生きて

いる証だと私は思っています。感動とは「感じて動く」と書きます。

感じたら具体的に動く、動くのは自分

しかもそれは他から強制されたり、命令されて、しぶしぶいいいやながら動くのではありません。

自分の考えと自分の意志でよろこびをもって積極的に動くことです。



つまり感動とは常に自分が自分の主役となつて、イキイキはつらつと動くことだというのが私の持論でした。

受け身・負ける練習、柔道の基本は受け身、

受け身とは投げ飛ばされる練習、

人前でころぶ練習、人の前で負ける練習です。

つまり人前で失敗したり、恥をさらす練習です。

自分のカッコ悪さを多くの人にさらけ出す練習、

それが受け身です。長い人生にはカッコ良く勝つことよりも、ぶざまに勝つことよりも、ぶざまに負けたりだらしなく恥をさらすことのほうがはるかに多いのです。

そして、負け方や受け身のほんとうに身に付いた人間が、人の悲しみや苦しみに耐えて人（他人）の胸の痛みを心の底から理解できる、優しく暖かい人間になれるんです。

そういう悲しみに耐えた暖かいこころの人間のことを観音さま、仏さま、と呼ぶんです。

相田 みつを

## 失速する日本の経済

予算カットと増税が、日本経済を破壊する、恐怖のシナリオが静かに進行している？

経済が萎縮（デフレ）している昨今の現状では、現在進行形の財務省主導の予算は、日本人に真の豊かさを導くものでしょうか。

今景気の二番底突入が密かにささやかれています。内需喚起、すなわちケインズ政策（新たな公共事業）でしかないと思う。

歳出削減をしても、国の借金には逆が増えるだけだと橋本内閣や、小泉内閣等の失敗でよく理解できているはず。

景気を悪くすることは、国を、そして国民を徹底的に貧乏にすることです。いま失業者は、実質10%を超えているはず。

### 「中小企業者等金融円滑化緊急措置法案」

さる10月30日国会に提出されました。

同法案は①中小企業への新規融資 ②債務返済の猶予の申込 ③住宅ローンの返済猶予申込の三つを想定しています。

法律の対象は預金を扱っている銀行で、政府金融機関や保険会社から住宅ローンを借りている場合は対象外ですが、協力を要請。

さらに返済を猶予した融資に政府補償を付ける。「条件変更対応保証（仮称）」制度が創設される。しかし、対象は「公的融資や保証を受けていない企業」です。

すでに多くの中小企業は「信用保証制度」を利用しています。従って該当して利用出来る中小企業は未知数で、果たしてどれだけ期待が出来るのでしょうか。

(有)西川経営オフィスサービス  
中村会計  
事務所便り  
2009年11月16日 (月) N077  
地域から明るい未来を作ろう